



創刊にあたって

今年度も、人権通信「ほっこり」を発行します。タイトルの「ほっこり」は、もともとは京都地方の言葉で、本来は「疲れた」「たいへんだった」という意味で使われていたそうです。しかし、最近では「ほっとする」「あたたかくなる」といった意味で使われていることが多いようです。

この通信の発行は年間を通して、道德の学習をはじめ、子どもたちの普段の様子の中にある「ほっこり」する一場面を、お伝えします。普段の子どもたちの取り組みや、学校での様子を保護者の方にお伝えできたらと思っています。その中で、人を大切にする事、自分を大切にする事について、子どもたちが家族の方と一緒に語り合える機会になれば幸いです。

1年生にしんせつにできるりっぱな2年生に！！

～学校しょうかいをしよう～（2年生）

かわいい1年生が入学してきて、ひとつお兄さんお姉さんになった2年生。道德で、「あおいはりっぱな2年生」という学習をした時には、1年生に親切にする主人公あおいの姿を通して、自分たちも1年生に親切にできるかっこいい2年生になりたいと話しました。

生活科では、「1年生を学校探検に連れて行ってあげたい！」と計画していましたが、今年度は例年のように、手をつないで探検することができなくなりました。そこで「学校を紹介してあげよう！」「紹介する本を作ってあげよう！」に計画を変更し、パンフレットづくりをしました。漢字によみがなをうったり丁寧に色塗りをしたりと、2年生として1年生に親切にしたいという気持ちで本づくりをがんばりました。1年生がパンフレットを見て喜んでくれるといいね！！



いのち 生命ってふしぎ…!! 理科の学習より（3年生）



「え～どこどこ?」「あった、ここ、ここ!」「うわあ、めちゃくちゃちっちゃい!!」理科の学習で、チョウの一生について学習をした3年生。キャベツの裏についたモンシロチョウの小さな卵をさがす子どもたちの目は真剣そのもの。「先生、生まれたで!」はじめは3mmほどのよう虫が、日に日に大きくなり、さなぎとなり・・・ついに、モンシロチョウが誕生!「さなぎの中は一体どうなっているんだろう?」「いつ、どうやってチョウの形に変わったんだろう?」と??がいっぱい。目を丸くしながら小さな生命の成長を喜んでいました。しっかり観察した後には、旅立ち。「ちゃんと飛べるかな?」と心配しながらも、無事大空に飛び立つチョウに「がんばって飛んでね!」「元気でね!」と声をかけ、手を振る子どもたち。生命の尊さ、不思議さに夢中の3年生でした。

